

## 会議結果報告書

会議の名称	令和6年度第5回札幌市子ども・子育て会議
日時・場所	令和7年3月28日（金）14:00～15:15 札幌市役所12階1～5号会議室
出席委員 20名/29名中	五十鈴理佳、大場信一、大森悠平、加藤弘通、川内佳奈、菊地秀一、桑原俊二、繁泉将晴、高瀬麻美、千葉一博、永浦拡、馬場政道、林亜紀子、樋口雅宏、藤原里佐、星信子、前田尚美、三好琴音、箭原恭子、藪淳一（敬称略）

報告	概要
(1) 第5次さっぽろ子ども未来プラン策定について	<p style="text-align: center;">&lt;事務局説明&gt;</p> <p>事務局より以下の資料について報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 第5次さっぽろ子ども未来プランキッズコメント・パブリックコメント意見集</li> </ul> <p style="text-align: center;">&lt;委員質問・意見&gt;</p> <p>資料1（1ページ）「1 キッズコメント・パブリックコメントの概要」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（馬場委員）パブリックコメントにおいて、どういう意見があったのか、また、件数などについては、公表する際にある程度明らかにされるものか。</li> </ul> <p>→（二渡子ども企画課長）資料1の1ページ目の2にキッズコメントの内訳として記載しているとおり、94人から183件のご意見をいただいている。また、パブリックコメントにつきましては、2ページ目に記載のとおり、55名の方から133件のご意見をいただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（委員）意見の件数や内訳程度しか出てこないかと思うが、どういう意見が出されているのかを知ってもらった方がいい。また、意見を出された方は、自分の意見は取り上げられているのか、それがどんなふうに反映されているのかを検証すると思うが、記載しないのか。</li> <li>・（委員）資料1の11ページ以降にあるものが、パブリックコメントをほぼ網羅していると考えて良いか。類似意見と記載されているものもあるが、全て掲載しているということで良いか。</li> </ul> <p>→（二渡子ども企画課長）資料1の11ページ以降にキッズコメント・パブリックコメントでいただいた個々のご意見を基本的に全て掲載し、併せて札幌市の考え方も掲載している。</p> <p>資料1（7ページ）「4 意見に基づく当初案からの変更点」の修正5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（委員）「子どもが大切にされている社会だと思う人の割合」における現状値について、一旦、令和6年の35.5%を掲載し、令和7年2月に実施したもので再度修正するということか。</li> </ul> <p>→（二渡子ども企画課長）現状値35.5%は、令和7年2月に実施した令和6年度のアンケートの数値である。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>(委員) 資料2の第4次さっぽろ子ども未来プランの計画全体の成果指標の推移に「子どもを生み育てやすい環境だと思う人の割合」があるが、資料1の7ページの修正には指標項目で「子どもが大切にされている社会だと思う人の割合」とある。この指標項目は同じものなのか、全く別なものなのか、教えていただきたい。</li> </ul> <p>→ (二渡子ども企画課長) 資料2で報告した調査については、現計画である第4次さっぽろ子ども未来プランの進捗を図るために実施をしているものである。第4次プランでは、「自分のことが好きだと思う子どもの割合」、「子どもを生み育てやすい環境だと思う人の割合」を成果指標に設定している。</p> <p>一方、資料1の7ページ目にある「子どもが大切にされている社会だと思う人の割合」は、令和7年度からの計画「第5次さっぽろ子どもプラン」で新たに設定をした指標であり、それぞれ設定している指標が異なることから、書きぶりが異なるものである。</p>
<p>(2) 令和6年度札幌市子ども・子育てに関する市民アンケート調査等の速報値について</p>	<p>&lt;事務局説明&gt;</p> <p>事務局より以下の資料について報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料2 令和6年度札幌市子ども・子育てに関する市民アンケート調査等の速報値について</li> </ul> <p>&lt;委員質問・意見&gt;</p> <p>資料1 (1ページ) 「1 調査概要」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(委員) 回収率について、子どもに関する調査だと34.8%になっていて、決して高い数字ではないと思う。この低い回収率で判断していくと、結果を見誤るおそれもあると思うが、回収率は下がっているのか。また、下がっているとしたら、何らかの手を打たないと、市民の意見を集約するときに偏った意見を集約してしまうことになるかもしれないと思う。</li> </ul> <p>→ (二渡子ども企画課長) 子どもに関する調査について、令和5年度だと36%であり、それよりも若干下がっているが、大体35~36%の数値でこれまでも推移をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(委員) 子どもの調査は郵送による調査票の配付で、子育てに関する調査はWEBアンケートでもできるが、WEBの方が回答が多いなど、傾向はあるか。</li> </ul> <p>→ (二渡子ども企画課長) 数字としては持ち合わせてはいないが、パブリックコメントでは、WEBの回答が非常に多かった実績があり、WEBの方が回答はしやすい傾向があるかと理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(委員) 前回の調査と比べると変わっていないとしてもそれよりも前などと比較するなどしてほしい。また、上げる努力をしないと下がっていく一方なのではないかと思うので、手法など検討いただきたい。</li> </ul> <p>→ (二渡子ども企画課長) 回収率を高めることで、広くいろいろな意見を募集できることにつながると思うので、回答率を上げる手法等について今後検討していきたい。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>(委員)「令和6年度札幌市子ども・子育てに関する市民アンケート調査」に係る調査対象者について、子どもに関する調査では2,000人、子育てに関する調査では3,000世帯となっているが、基準はあるのか。札幌市にいる子どもの人数に対してどのくらいの割合の人数を把握して、反映しようとしているのかが重要な点かと思う。</li> </ul> <p>→(二渡子ども企画課長) 子ども未来プランの改定に合わせたタイミングだともう少し多く調査しているが、経年の調査では、例年この対象数で調査している。先の委員の質問にも重なるが、できるだけ多くの声を拾い上げるために、手法等について今後検討させていただきたい。</p>
(3) こども誰でも通園制度について	<p>&lt;事務局説明&gt;</p> <p>事務局より以下の資料について報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料3 こども誰でも通園制度について</li> </ul> <p>&lt;委員質問・意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(委員) 時間単価について、現状が850円で令和7年度に1,300円に上がるが、毎年少しづつでも上がっていくのか。</li> </ul> <p>→(加藤子育て支援課長) 現状においては、その年度ごとに物価上昇分や人件費分など、単年度ごとに国の動向を見ながら決めていくこととなり、将来的に段階的に引き上げていくという考えは、今の時点ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(委員) 令和6年度の単価では厳しいという話や、実施する保育園が減るのではないかという話を聞いている。保育所の負担も多いとも聞いてるので、負担軽減など、実施しやすい形にしていただきたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>(委員) 補助単価について、定期利用であれば、ある程度想定して保育士を増員できるが、突発的な利用に対する保育士の確保はなかなか難しいと思うので、固定単価をある程度確保しない限りは、施設を増やすことは難しいと思う。ただ単に補助単価を上げていくことを国はやっていくと予想できるので、札幌市として固定単価について検討していただきたい。</li> </ul> <p>→(加藤子育て支援課長) 基本的には、国の補助基準に基づいて単価を設定している。札幌市単独でどこまで財源を確保できるかということも今後の検討となるが、基本的にはまず、国にしっかりと財源を用意してもらい、安定的に継続できるような制度となるのが望ましい。いただいたご意見などを踏まえて、まずはしっかりと国にも要望を伝え、その上で、令和7年度の単価引上げ後の状況を見ながら、検討を続けていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(委員) 0～2歳児で、発達特性があるような子どもがあっても、診断に至らないということが普通であって親の困り感というのには常にある状況で、そのようなお母さんであればあるほど、ちょっとリフレッシュを兼ねて預けたいと希望があると感じる。そういう特性がある子どもが</li> </ul>

	<p>来ると分かれば保育園でも対応可能だと思うが、突発的な通園の場合は、保育士や現場がすごく困ることが想定される。第4回の書面会議の際に、事前の申し込みの段階での聞き取りなど、こういった場合の検討などについて質問し、検討していくと回答いただいたが、その後の進捗について伺いたい。</p> <p>→（加藤子育て支援課長）この制度の仕組みとして行政機関としてできるのは、まずは障がい児加算や医療的ケア児の加算といった金銭的な面での対応となる。また、保育園でしっかり事前面談や親子登園という形で子どもの状況や必要な対応などについて情報共有が必要であると考えるが、これは定期利用だけでなく、突発的な利用においても同様であり、明日使いたいので明日預けに行きますということではなく、事前面談で状況を個別に聞き取ったうえで預かっていただいている。</p> <p>ただ、保育園や保育士に負担もあると思うので、その手立てについては、今後の国から発出される手引きなどを参考にしつつ、各園へ情報提供を行い、スムーズに進められるようにしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（委員）この制度を利用する中で、子どもや保護者の困り感をピックアップできるとも考えられる。そのことを契機に支援が継続されることや、何か市のサービスにつなげていく機会とするといいのではないかと思う。</li> </ul>
(4) 各部会の決議状況	<p>＜事務局説明＞</p> <p>事務局より以下の資料について報告を行った。</p> <p>資料4 認可・確認部会の決議状況等</p> <p>資料5 児童福祉部会の決議状況等</p> <p>資料6 いじめ問題再調査部会の決議状況等</p> <p>資料7 若者支援施設在り方検討部会の決議状況等</p> <p>＜委員からの意見及び質問＞</p> <p>なし</p>

情報提供	概要
1 令和7年度子ども・子育て関連の事業概要説明	<p>＜事務局説明＞</p> <p>事務局より以下の資料を用いて情報提供を行った。</p> <p>資料8 令和7年度子ども・子育て関連の事業概要</p> <p>＜委員からの意見及び質問＞</p> <p>なし</p>

（議事概要について発言者内容確認済み）